

## アドバイザー派遣事業実施レポート

研究団体	クラス会議研究会
研修テーマ	思いを伝え合い 共によりよく生きる子どもの育成 ～「感じ、考え、かかわり、行動する」子ども～
実施期日	平成30年11月6日（火曜日）
実施場所	鳥取市立富桑小学校
アドバイザー	上越教育大学教職員大学 赤坂 真二 教授

### ○事業の概要

鳥取市立富桑小学校で、クラス会議研究会を実施した。湯梨浜町立羽合小学校の先生方にも参加していただき、学級活動（クラス会議）と国語科の授業を全学級が公開し、その後、クラス会議や学級経営についての指導助言をいただき、講義・演習を行っていただいた。

### ○富桑小学校の学級経営・クラス会議への指導助言

富桑小学校では、落ち着かない子どもがいる学級が複数あり、学級経営が困難になってきている。また、いくつかの学級が落ち着かないことで、学校全体が落ち着かない雰囲気になっている。そこで、学級活動と研究教科である国語科の授業を全学級で公開し、赤坂先生にはクラス会議についての指導助言だけではなく、学級経営についても診断していただき、指導助言をいただいた。

#### 【学級の中で落ち着いて学習できない子どもたちへのかかわりについて】

注目行動をとる子を叱っても、関わってもらっていると誤学習する。かといって無視するようなことはしてはならない。そこで、

#### ①存在を認める仕草をする

頭をなでる、にこっと笑いかけるなどし、その子の存在を認めていることと伝える。

#### ②褒める

個別に支援が必要な子は、叱ることで悪い面が強化されているので、褒めることで何をがんばればいいのか明確にしてやる。

#### 【クラス会議の話合いで求めるもの】

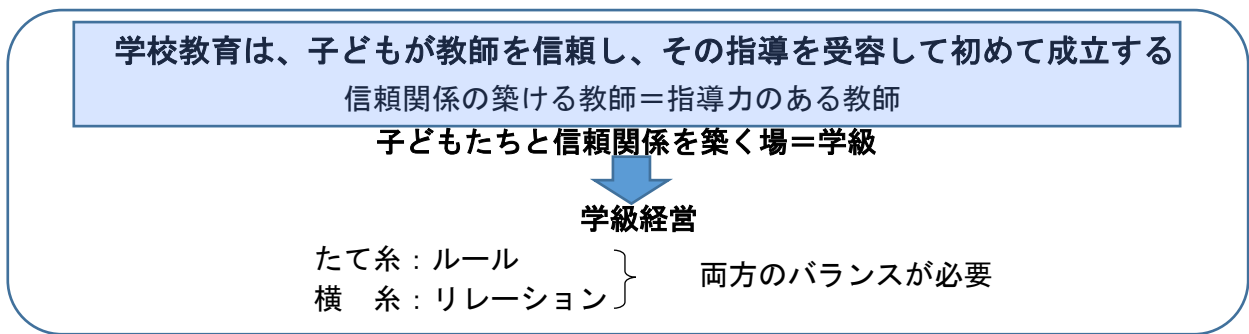
#### ①子どもの発話量

#### ②意見の多様性（密度）

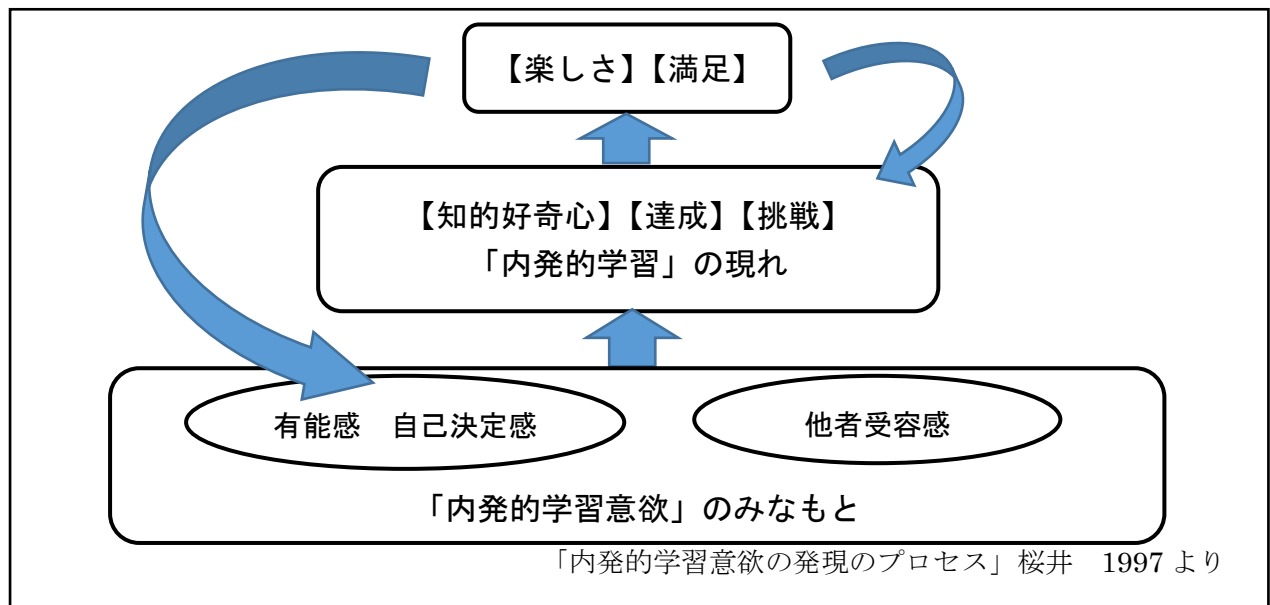
#### ③質

この3点は、クラス会議だけではなく全教科で取り組むことで、話すときはしっかりと話し、聞くときはしっかりと聞くなどメリハリがつけられるようになり、ルールを定着させていくことができる。また、この3つを保証することで、自分の存在が認められる経験が積み重なっていくので、リレーションも築けるなどの指導助言をいただいた。

○講義・演習 「学級経営の充実～指導力のある教師が知っていること～」



今の子どもたちは、教師が何もしなければ解体の方向へばらけていく。だから、意図的につないでいかないと学級（子どもの関係）は崩れていく。学級を崩れさせないために、学級経営を充実させることが必要である。



この「内発的学習意欲」のみなもとになる、有能感や自己決定感、他者受容感は学習集団を育成するなかで高めることができ、その学習集団を育成することにクラス会議が役立つ。クラス会議は、単なる話し合いの場ではなく、しつけの場（積極的な率先垂範の場）であり、序列はなく（全員が対等である）一人一人の意見が尊重される場である。そして、じっくり話を聞いてくれる人がいるということが有能感を高め、クラスが自分の居場所だと思えるようになるとのことだった。また、クラス会議と教科指導は連動しており、クラス会議でやったことは、教科指導でも行い、徹底することが大切であると教えていただいた。

学級経営は、知らず知らずのうちに問題が進行するので、定期診断が必要であり、学級経営は、「学ぶ・勉強する・教え合う」時代になっている。この「定期診断」という言葉が新鮮だった。これまでの学級経営の振り返りについて考えると、担任自身の振り返りが中心であった。学級経営について他者に意見をもらうことで、なんとなく行っていたことが明確化されたり、自分の学級経営にたりないものを見つけたりすることができるのではないかと感じた。学級経営について、伝えるという意識をあまりもっていなかったが、今後は、学級経営について積極的に伝え合ったり、学級経営を学ぼうという姿勢をもってお互いに教え合ったりすることを確認した。